

29年10月
発行

し え ん 便 り

和歌山県立みくまの支援学校 支援部

百見は一聞にしかず？

巡回相談で時々出会う「本読みが苦手な子ども」。今回は、そういった子どもに対して合理的配慮の観点から学習を支援するツールを紹介したいと思います。「本読みが苦手な子ども」は、文字を音に置き換えるのが苦手、文字を目で追うのが苦手、漢字の読み方が分からない等理由はさまざまです。

教育支援資料「～障害のある子どもの就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」には、読み書きが苦手な子どもに必要な合理的配慮の観点として①教育内容・方法 ①-1-1で学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮に「読み書きや計算等に関して苦手なことをできるようにする、別の方法で代替する、他の能力で補完するなどに関する指導を行う。」と記されています。

指一本でいろんなことができる便利なスマホやタブレットは、文書や単語を読み上げてくれるという機能もあります。スマホやタブレットから流れてくる文書の内容を聞いて理解したり、漢字の読み方を聞いて調べたり、聴覚からの情報も活用した学習につながればいいなと思います。(望月)

書籍紹介

最近では、東田直樹さんやニキ・リンコさん等、自閉症当事者の方々が、自分たちの感じている世界を著書の中で教えてくれるようになりました。

今回紹介する「自閉症ガールひまわりさんの日常—彼女に見えている世界—」は、同じ出来事を学校の先生から見た世界とひまわりさんから見た世界との二人の視点から解説することにより、私たちと自閉症のある人たちとは見えている世界が違うことを教えてくれます。この本では、お互いが、「違う」ということが分かっている、ひまわりさんに私たち世界の常識を押しつけようとしてしまうことがあるなと振り返らせてくれます。自閉症のある人たちには、「社会性、コミュニケーション、イメージネーション」に発達的な偏りがあると言われていています。これらを、否定することなく、その特性のある人たちとして肯定的に関わりたいものです。(南)

子どものことが知りたいなら、この1冊！
専門家の先生からの助言や支援方法も満載です！

「自閉症ガール ひまわりさんの日常—彼女に見えている世界—」
(少年写真新聞社 成沢 真介 著)



<お問い合わせ先>

T e l : 0735-31-6101 F a x : 0735-31-6102 支援部 南